

第4回中央区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日 時：平成19年2月17日（土） 午前10時から午前11時30分まで
場 所：千葉市美術館11階講堂
出席委員：26名中22名出席（欠席委員：4名）
傍聴人：1名

<次 第>

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 報告事項
(1)パイロット事業の追加申請について
- 3 議題
(1)広報紙第2号の発行について
(2)協議会の今後の取り組みについて
(3)その他

会議内容

次第に従い、委員長が議長を、副委員長が司会を務め会議が進められた。

報告事項

- (1)パイロット事業の追加申請について
事務局より、「地域福祉パイロット事業申請状況表」に基づき報告。

- 質疑なし -

議題

- (1)広報紙第2号の発行について
事務局より、広報紙案について説明。

<質疑・応答>

委員長：活動紹介をする地区部会は、この場で決めるのか。

事務局：事業の内容は事務局で把握しているので、事務局で選ばせて頂きたいが、委員から推薦があればご意見をいただきたい。

委員：事務局案はあるか。

事務局：白旗台地区部会、東千葉地区部会、松波地区部会に依頼したいと考えている。

- 委員： 広報紙は、回覧されても目に付かない。予算のこともあるだろうが、カラフルなものにできないか。
- 事務局： 予算のこともあるので難しい。
カラーの用紙を使う程度の予算であれば可能性はある。
- 委員： お金が無いなら仕方がない。
- 委員長： 事務局には、なるべく目立つようお願いしたい。
ここの地区部会をというのであれば出して欲しい。
- 委員： 都地区部会の「地域ぐるみ福祉推進交流事業」に興味を持った。
内容を教えて欲しい。
- 事務局： 三つの事業を一つにまとめた形でパイロット事業として行った。
子どもと高齢者がコミュニケーションをとったり、ボランティアを育成する場として「芋掘り」、高齢者のためにモノレールを貸し切ったの「お月見」、地区で食事サービスを行っているので「太巻き寿司講習会」などを行った。
- 委員： 西千葉地区の「子育て支援 よいこの広場」を説明して欲しい。
- 事務局： 地域での子育て支援のため講演会を行い、子育てサロンを始める機運を高める事業である。
- 委員： 広報紙に事務局が取材した内容もあればと思うが。
- 事務局： そういうようにも考えたが、地域で活動している皆さんの声がストレートに伝わった方が良いと思う。
- 委員： 自治会として言うが、回覧物は不必要なものは省くようにしている。広報紙には、その時々にあわせてQ & Aを載せて欲しい。
- 事務局： Qの部分を出してもらえば生かすことができると思う。載せる部分は小さくなるかもしれないが、可能である。
- 委員長： 疑問を持っている方もいるので載せた方が良い。
- 委員長： 各区でこのような広報紙を出している。広報部会を作っている区もあり、部員が編集後記を書いている区もある。今回、中央区は副委員長の感想が載るので良いのではないか。回覧するとき、子ども、高齢者というように区分して回すといいと思う。
Q & Aについては、面白おかしくわかりやすく載せていくように事務局で考えていくと良いだろう。
- 委員： 載せるのを3地区だけをお願いするとのことだが、他の地区はどうするのか。
- 事務局： 順次、回して掲載していく予定である。

(2) 協議会の今後の取り組みについて

事務局より、資料により説明。

(要旨)

1. 計画の内容は、中央区の基本目標、基本指針、生活課題等に基づいたものでなければならない。(パイロット事業が単発的なものが多いと批判があったため。)
2. 推進協としての意見を各団体に具申するよう務める
3. 実施する事業の取り組み状況について委員の共通理解を図る。今年度は足りなかった。今後の会議で随時意見交換を行う。
4. 今年度は、地区部会を中心に事業を行っているが、19年度は他団体との協力を目指していかなければならない。未実施の地区には積極的な働きかけをして実施してもらうようにする。新聞、ラジオなどのマスコミも活用することを検討する。

< 質疑・応答 >

- 委員 長： 来年度以降の取り組みについて意見を出して欲しい。
- 委員： 地区部会で議論した結果、子育て支援の自主サークルはあるが、地区部会としてはやっていないので取り組んだ。いろいろな用品を購入できて良かった。また、10万円という金額を使ったので広報紙で各部会から報告が欲しいと思うが。
- 委員 長： 来年度の広報紙の取り組みとして考えてやってもらえばいいと思う。
- 委員： 今一番困っているのは、個人情報の関係で自治会名簿に載せないでくれ、という人がいることだ。4、50代の人でも孤独死がある。テレビで見たが、川崎あたりで4、5軒の周囲の人が小さな単位で見守りをし、緊急連絡先も集中管理するということもやっていた。民生委員も独居老人について情報を出さないので困っている。
- 委員 長： 困っていることは、計画を作るときにも出した。それをどう実行していくかというのが推進協である。来年度以降、どうすれば実行できるか、皆さんにも考えていただきたい。
- 委員： 今一番困っているのは老人のこと。年齢を教えなくてはならないので老人会に入らないと言われてしまうが、改善を要するのではないか。計画の取り組みについては地区部会が頑張っている。「活動報告」をやっていくと理解が深まるのではないか。周りの者の協力があってこそ事業が展開していく。広報紙での地区部会の活動報告は、活動している方の励みになると思う。
- 委員： 18年度は介護保険制度が改正され、介護難民が増加すると思われるが在宅者の救援活動はどうなるのか。51の取り組みの中で該当するものはあるか。そのような場があってもいいのではないか。
- 委員 長： 推進協の中で事業の内容まで考えるということですか。
- 委員： そうです。
- 事務局： 今後の取り組みについての話の中で地域での見守りがなかなかでき

ないということだが、国の方の講演会に話を聞きに行ったときに、京都のある町で大震災をきっかけに見守り体制を作ったということを知った。団地では公団と自治会が「安心登録カード」を作っているところもある。地域の取り組みや個人情報保護法についての考え方等、委員に情報を伝える場としても推進協を活用したい。

委員： 他団体との連携・協力とは具体的にはどういうことか。

事務局： 地区部会の事業を、協調してくれる団体と協力して行っていくというようなことである。全市的にもそういう事例はある。地域福祉推進について理解のある団体が単独で事業を行うことや地区部会と協力して取り組むということもあると思っている。

委員： 私の地域では、すでに他団体と協働で「放課後子供教室」という取り組みを行っている。40～50人の子供が参加しているが、活動を見守るボランティアの不足に困っている。

委員： 自分はいろいろな団体と関わっているが、それらの団体と何か一緒にできるかなと思っている。

委員： 簡単なお手伝いをしてくれる人が足りないので協働によって確保できればと思う。

委員長： 来年度の課題についてはいかがでしょうか。事務局の説明によると来年度は推進協として、事業への取り組みが積極的になったということか。

事務局： 推進協はあくまで意見交換の場であるので事業に積極的に取り組むということではない。しかし、連絡調整という役割もあるので、委員の皆様にはそれぞれの所属団体や地域の中でご協力をお願いしたい。

委員： 来年度もパイロット事業の600万という予算はあるのか。

事務局： 要望はしている。

事務局： 来週からの市議会で予算案を上程している。

委員： 私の地区は古い土地柄であり、どこかですでに51の取り組みはやっている。52番目の事業を立ち上げるべく検討をしているが、これには相当の予算が付かなければパイロット事業を行うことはできない。是非、予算が付くようお願いしたい。

(3) その他

委員の改選について事務局より説明。

事務局： 委員の任期は一年になっている。これから改選となるわけだがご協力をお願いしたい。

カテゴリー1の委員については委員個人に引き続き委員就任をお願いしたいので文書で意思確認をしたい。

カテゴリー 2 の地域福祉活動者については、各団体に推薦依頼を行う。

カテゴリー 3 の社会福祉事業者からの委員が一人もいないので、全体的なバランスを考慮し、補充する方向で調整したい。

< 質疑・応答 >

委員： 委員の構成表を見ると自分は公募という立場で落ち着かない。

自治会の問題で公募という形になったが、老人クラブとして出してもらえないか。

事務局： 団体に推薦依頼をお願いするので、関係団体に調整して頂きたい。

委員： 私も公募で入っているが、地域でいろいろ活動しているのだから後ろ盾を気にする必要はないと思う。

委員長： 他に何かありますか。

委員： 予算は、必要なところだけつけるという方向でやって欲しい。

委員： パイロット事業を進めるというのではなく、計画に沿った活動を進めるのが大切なのは。

委員： パイロット事業にとらわれなくて、計画の 7 つの基本方針に沿った活動が進められればと思う。

あいさつ： 本年度最後の会議であったので、委員長、副委員長、福祉事務所長から、各々あいさつをいただきいた。

副委員長： 閉会の挨拶（会議終了）